

1P39

病児保育施設の保育士や看護師の取り組みに関する文献検討

田中 岳美、石原 あや

兵庫医療大学 看護学部 看護学科

【目的】

病児保育施設においては保育士や看護師は、体調を崩した子どもが慣れない環境の中で安心して過ごすことができるように、また施設に子どもを預けることに不安を抱く保護者にも安心してもらえるように取り組むことが重要である。本研究では、文献検討により病児保育施設の保育士や看護師がどのように保育や看護の取り組みを行っているのか現状を明らかにすることを目的とした。

【方法】

医学中央雑誌Webを用いて、「病児保育」「看護」「看護師」「保育士」をキーワードとして2010年から2020年8月までの会議録を除く原著論文および実践報告の検索を行った。抽出された71件の文献のうち、選択基準を満たした12件を対象とした。対象文献は、病児保育施設の保育士や看護師の保育や看護の取り組みや体験に関する内容を抽出し、類似した内容で整理した。文献の使用にあたっては出典を明らかにし、著作権を侵害しないものとした。

【結果】

保育士は、病気の子どものに合わせた遊びを考え、病児保育を通して母親の子育て支援を行っていた。子どもの反応や母親からの感謝が支えとなり病児保育に携わる喜びとなっていた。看護師は、主な看護実践として子どもの健康観察・保育補助・医療的なケア・保護者への対応などが挙げられた。保育士と看護師は、お互いの専門的な業務に関しては苦手意識を持っているものの補い合っていかなければならないことを認識していた。また、スタッフ間でツールの改善や活用などを提案することで、スタッフ間の情報と知識の共有ができ、子どもにも安心できる環境を与えることができていた。

【考察】

病児保育施設の保育士や看護師は、専門領域に関してはアイデンティティを持って取り組むことができているが、お互いの専門的な業務に関しては苦手意識があった。このことから、保育士と看護師はお互いに役割を補う視点で理解して協力していくこと、情報・知識の共有を行うことで保育や看護サービスの質の向上につながることを示唆された。